

# 呼吸器疾患における漢方療法の有用性



加藤 士郎 先生

獨協医科大学 心血管・肺内科

1982年 獨協医科大学卒業  
1982年 獨協医科大学第一内科(現:心血管・肺内科)入局  
1988年 獨協医科大学第一内科 助手  
1994年 獨協医科大学心血管・肺内科 講師

## はじめに

呼吸器疾患は漢方療法が有効なことの多い領域である。漢方療法が有効であった呼吸器疾患の症例を紹介する。

### 症例 1 びまん性汎細気管支炎(DPB)に対するエリスロマイシン(EM)と葛根湯加川芎辛夷の併用療法

症例：39歳、男性

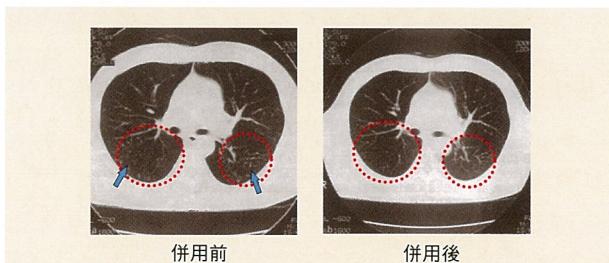
主訴：咳、痰、鼻閉、鼻漏、後鼻漏

現病歴：約2年前から咳、痰とともに鼻閉、鼻漏、後鼻漏などの副鼻腔症状を呈していた。

経過：DPBの診断のもと、EM600mg/日の6ヵ月間服用で、咳、痰は減少したが、副鼻腔症状の改善は認めなかった。東洋医学的所見は、やや実証、肩こりや頭痛を認めたが、臍痛点はなかった。そこで葛根湯加川芎辛夷エキスを併用した。服用1ヵ月で副鼻腔症状は著明に改善、2ヵ月後には喀痰量も75から25mL/日に減少し、呼吸困難などの下気道症状も改善した。本剤服用前後の胸部CTスキャンでも著明な改善を認めた(図1)。

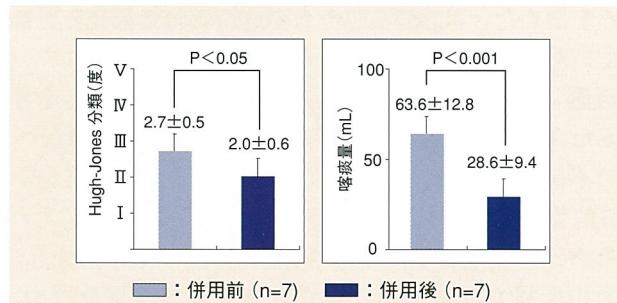
さらに同様のDPB症例7例で、呼吸困難度と喀痰量について検討したところ、いずれも著明改善を

図1 症例1の経過(CTスキャン画像)



認めた(図2)。

図2 葛根湯加川芎辛夷併用前後の呼吸困難度と喀痰量の推移



考察：DPBは東洋人に多い気管支炎であり、EMの少量長期療法が効果的とされているが、この療法でも十分に改善されないケースも多い。

葛根湯加川芎辛夷は、比較的体力がある患者の副鼻腔症状を目標とした処方である。このような症状はDPB患者に多く、副鼻腔症状を改善することがDPB全体の治癒率の向上に繋がった。

### 症例2 慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対する清肺湯の有用性

症例：58歳、男性

主訴：咳、痰、軽度の呼吸困難

現病歴：約2年前から咳、痰を認め、次第に呼吸困難を自覚したため当科を受診した。

現症：喫煙指数1,050、1秒率67(%)、%1秒量76(%)であった。舌診はやや淡白舌、脈診はやや沈であることから、やや陰証で虚証と判断した。

経過：1ヵ月間の禁煙にもかかわらず呼吸困難は改善しなかったため、呼吸器系に抗炎症作用を有する清肺湯エキスを処方した。呼吸器症状は、服用1カ

月後にはやや改善、6カ月後には著明改善した。また胸部X線写真での器質化性肺炎像も、服用1年、2年と経過するにつれ改善し続けた(図3)。

さらに同様のCOPD症例で、禁煙のみ(対照群)と禁煙と清肺湯服用(服用群)で経過を比較した。その結果、呼吸器症状の改善は、服用群では早期に認められ、両群とも1年後にはほぼ同等となった。しかし、画像所見では、長期になるにつれ服用群で明らかな改善効果を認めた(図4)。

**考察:**COPDの潜在患者は530万人にも及ぶと言われている。治療は禁煙、ワクチン以外にとくに有効なものはない。清肺湯は比較的体力が低下し、下気道に慢性炎症があり持続性の呼吸困難や咳が目標となる。COPDには肺陰虚が多く、清肺湯はCOPD治療には不可欠な処方であると言える。

### 症例3 胃食道逆流症(GERD)に対する西洋薬と半夏厚朴湯の併用療法

**症例:**77歳、男性

**主訴:**胸やけ、胸部不快感、咳、のぼせ

**現病歴:**数年前から食後に軽度の胸やけがあり、1年前にはGERDの治療を受け、消化器症状は改善したが、呼吸器症状の改善は認められなかった。

**現症:**腹診で心下痞鞕、胸脇苦満を認め、陽証でやや実証と判断した。寺澤スコアで、気鬱38点、気逆40点、気虚16点であった。

**経過:**胸やけ、胸部不快感はファモチジン、レバミピド、エカベトナトリウムの服用で消失したが、夜間の咳はテオフィリン徐放剤にても十分改善しなかった。そこで、半夏厚朴湯エキスを併用したところ、呼吸器症状も著明改善を認めた。

**考察:**GERDは消化器症状のみならず、呼吸器症状を呈することが多く、呼吸器症状は西洋医学的治療に抵抗することが多い。

半夏厚朴湯は体力が低下し、咽頭部や食道部の閉塞感、ヒステリー症状を目標とする。とくに、高齢者GERD患者はこのような証を呈することが多く、半夏厚朴湯の有効性は高い。

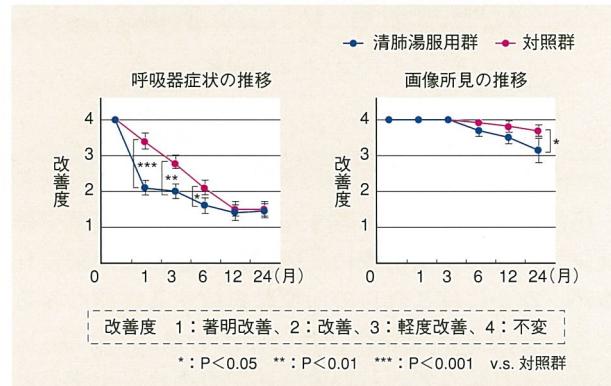
### まとめ

呼吸器疾患は、急性・慢性を問わず漢方療法の適応が多い領域である。特に西洋医学的治療との併用療法は、呼吸器疾患の治癒率をより改善させると考えられた。

図3 症例2の胸部X線写真の推移



図4 清肺湯服用後の呼吸器症状と画像所見の推移



### COMMENTS

**後山** いずれも大変インパクトのある症例でした。COPDの症例では、漢方を使用することで臨床症状のみならず、ビジュアル的にも著しい改善が認められたのですが、西洋医学的対応をするとすればどうだったのでしょうか。

**加藤** この症例ではそのような症状がなかったため、治療も考えられません。漢方を使用することで、より良好な結果が得られたと思われます。

**後山** GERDに半夏厚朴湯が効果的であったということから、気の滞りが重要なポイントであるという印象を持ちました。峯先生、いかがでしょうか。

**峯** 半夏厚朴湯は気の流れの改善剤です。横隔膜から胸骨部にかけて気がつまりやすい部分があり、胃の気の流れは下向きが正常ですが、その流れが阻害されると、気が停滞し、気逆(のぼせ)の症状が起ります。半夏厚朴湯がのぼせとGERDの症状を同時に改善するというのは理にかなっているのではないでしょうか。

**加藤** 半夏厚朴湯の主薬である厚朴のマグノロールが、ラット脳内のノルアドレナリンなどのレセプターに作用して中枢性に働くことが確かめられていることから、臨床的にも中枢性の作用が関与していることが推測されます。